

公益財団法人
日本中国国際教育交流協会

【2016年度の歩み 会報第23号】



- 派遣
- 受入
- 支援
- 研究等助成

第1回日中音楽教育交流会
第4次宋慶齡基金会教育交流代表团
東平県音楽教育支援
第5回ホームステイ（千葉）
第2回日中教育文化シンポジウム
第12回日本語作文コンクール

2017年3月発行



卷頭言

公益財団法人日本中国国際教育交流協会

代表理事 黒田 文男

公益財団法人日本中国国際教育交流協会の事業に対しまして、多くの方々より励ましやご支援を賜り御礼申し上げます。

民主主義の基本的理念のひとつに自助を前提とした共助・公助の考え方をどこまで共有するかということがあります。又、其々の歴史・宗教を背景にした国の成り立ちの中で人々の生き方の違いを尊重することも至極当然なことです。しかし、今日自国唯一主義的な主張がまかり通っているようで残念であります。

日本と中国及び韓国の関係は、一衣帶水の地、「引っ越し」できない親戚のような国同士であります。互いの違いを認めつつ仲良くしていくことはごく当たり前のことであります。

そのためには、違いを認めつつ人と人の交流を前提にした信頼関係を常に醸成しようとする行動が必要となります。

当会の事業に当たる場合は、中国宋慶齡基金との共同プロジェクトは、まさしく国を超えての人と人の交流であり、得られる教育成果は多大なものがあります。

今年の秋には、山東省泰安市東平県の教育関係者を静岡県に招待し、教育交流を実施します。日本と中国、互いの教育施策を学びあう絶好の機会にしたいと思います。多くの方々に参加していただければと願っています。

又、日本語作文コンクールで最優秀を受賞した学生さんや日本、中国の若者たちを中心に「日中教育文化交流シンポジウム」を開催し当会の役割と使命を幅広く知っていただきます。そのためには、中国大使館を始め、中国有識者等のご支援を賜ればと思料します。

今後も中国を初めとした方々との「人と人の交流」をより密にし「互助、共助、互恵」の関係を構築するよう努めてまいります。

当会は、教育の振興を目的とした公益財団法人であります。満足に教育を受けられない子どもたちにとって、国境という地理的な隔たりは関係ありません。

今後とも、多くの都道府県の教育関係者の方々のより一層のご支援を賜りますことを深甚よりお願い申し上げます。

第1回日中音楽教育交流会（教育交流・派遣事業）

第1回日中音楽教育交流会を、中国山東省泰安市東平県において、8月22日（月）に実施しました。初めての試みでしたが、財団の新たな教育交流プロジェクトの一環として、教育交流＝派遣事業・支援事業そして受け入れ事業にもつながる取り組みとして行いました。宋慶齡基金会の全面的な協力の中で、山東省泰安市東平県教育局との具体的な打ち合わせも進み、日本側からの参加者6名（教職員・協会関係者）と中国側からの参加者約70名（東平県小中学校音楽教師及び実験学校教職員・教育局関係者・宋慶齡基金会担当者）とで実施することが出来ました。日中相互に音楽教育のとらえ方・目標そして具体的な音楽教育実践について発表し、質疑応答等をして交流を深めました。音楽教育の相互理解という意味でも、また、実践交流を通して学び合うという側面からも、大いに成果があったと感じられる第1回日中音楽教育交流会でした。



開会式の様子



実践発表の様子

（1）第1回日中音楽教育交流会実施要項

- | | |
|--------|--|
| 1 主催団体 | 日本中国国際教育交流協会・中国宋慶齡基金会・山東省泰安市東平県教育局 |
| 2 目的 | 中国・日本双方の音楽教育（小学校）の実践について交流し、互いの音楽教育の質の向上を図る |
| 3 期日 | 2016年8月22日（月） |
| 4 会場 | 東平県実験学校 |
| 5 参加体制 | 東平県小学校教師 40名
日本教師 2名
関係者 25名 |
| 6 日程 | 午前の部
○開催行事
代表者挨拶（東平県教育局・中国宋慶齡基金会・日本中国国際教育交流協会）
発表者紹介
日程説明
○発表1（音楽教育の小学校教育課程＝カリキュラムについて）
日本・中国それぞれ一人ずつ発表
発表後質疑応答
○昼食
○発表2（音楽授業の実践レポート発表＝普段学校で行っている授業の様子がわかるもの）
中国・日本それぞれ一人ずつ発表
発表後質疑応答
○参加者感想発表 |
| 7 経費 | 教育交流派遣事業費で日本側参加者の経費を、教育交流支援事業費の中で日中音楽教育交流会の諸経費をまかなう。 |

(2) 実施細案・日程表

午前の部

9:00~	開催行事 代表者挨拶 発表者紹介 日程説明	司会者（劉 立新副局長） 東平県教育局代表（何 冰局長） 中国宋慶齡基金会代表（劉 穎処長） 日本中国国際教育交流協会代表（黒田文男代表理事） 中国（東原実験学校 李 静先生） (第四実験小学校 李 志偉先生) 日本（静岡県磐田市立富士見小学校 神谷比登美校長） (静岡県磐田市立富士見小学校 安藤佐織主幹教諭)
9:30~	発表1（音楽教育の小学校教育課程<中国=音楽課程標準><日本=音楽学習指導要領>と学校での実践の様子について） 日本（神谷比登美先生） 発表後質疑応答 中国（李 静先生）それぞれ発表 交流（歌唱交流=参加者で歌唱練習「さくらさくら」） 発表後質疑応答	
11:30~12:30	昼食（参加者全員で会場の小学校の食堂で行う）	
午後の部		

12:30~	発表2（音楽授業の実践レポート発表=普段学校で行っている授業の様子がわかるもの<表現=歌唱・器楽・創作><鑑賞>から） 日本（安藤佐織先生） 交流（歌唱交流=参加者で歌唱練習「茉莉花藻モーリーファ」） 発表後質疑応答 中国（李 志偉先生） 発表後質疑応答
14:00~	参加者感想発表
14:30	解散

(3) 挨拶

日本中国国際教育交流協会代表挨拶

公益財団法人日本中国国際教育交流協会
代表理事 黒田 文男



私は公益財団法人日本中国国際教育交流協会理事長の黒田文男です。日本中国国際教育交流協会は、日本の多くの教職員によって支えられている組織です。日本と中国との間で、教職員の派遣や受け入れ、教育支援などを行っています。

今回は、教育関係者の代表者や小学校の校長先生、音楽の先生も同行しております。同行者は宋慶齡基金会との共同プロジェクトの成果を実感するものと確信しています。

当会は、河北省保定市易県の音楽教師の皆様方との交流を5年にわたり実施してまいりました。易県での交流会は回数を重ねるごとに、内容

は拡充してきたと思います。その理由は、易県の音楽教師の皆様方の教育に対する熱意が成果として現れました。加えて、共同プロジェクトとして宋慶齡基金会の皆様方のご支援があったものと感謝しております。

また、今回、宋敬齡基金会から、新たな音楽教育の交流の地として、ここ、東平県を推薦していただきました。どのような音楽教育交流が行えるか、大変楽しみにしております。

私たちが音楽教育の充実に取り組む理由は、音楽は歴史や文化の理解に欠かせず、また言語による交流の困難を乗り越え易いとの利点があります。

当会が行う交流は、小さきものであります。しかし、国と国の友好は、人と人の信頼と尊敬から生まれるものであります。

挨拶の終わりに当たり、日中音楽教育交流会を通じて、日本・中国の子どもたちの教育水準の向上、又、未来の日中友好の一助になることを心から祈っております。

来年は、東平県の音楽の先生方には、日本で最も美しい山、富士山がある静岡県に来ていただくことに努力することをお約束します。

皆様のご健康と、子どもたちの輝かしい未来と発展を願ってご挨拶といたします。

中国宋慶齡基金会代表挨拶

中国宋慶齡基金会基金部プロジェクト総合処理長 劉 穎

尊敬するご友人の皆様、先生の皆様：

こんにちは。

本日、古い歴史と伝統があり、優れた人物を輩出した山東省東平県にお集まりいただき、日中音楽教育交流会を開催できますことを誠に嬉しく存じます。中国宋慶齡基金会を代表して、遠路はるばるお越しくださいました日中国際教育交流協会の皆様に対し、熱烈な歓迎を表すとともに、夏休みにもかかわらずご参加いただきました先生の皆様に対し感謝を申し上げます。また、交流会の開催に多大なご尽力を頂きました東平県教育局と東平実験学校の皆様にも、感謝を表したいと思います。

宋慶齡女史は「多くのことは、待つことができますが、子どもたちのための活動は、待つことができません」という言葉を残しています。彼女は生涯児童教育事業に关心を持ち、そのためには力を尽くしました。宋慶齡女史の遺志を受け継ぎ、中国宋慶齡基金会は発足以来、「国際友好の増進、祖国統一の促進、児童事業の発展」という3つの宗旨を堅持し、自身の特長を生かして国内外の社会資源を統合し、各事業を着実に進めてまいりました。

当基金会は長い間、日中国際教育交流協会と共に、経済的に未発達な地域において教育関連の寄付、音楽教師トレーニング、及び音楽教育交流活動を展開してまいりました。これらの活動は、農村の小学生たちに楽器を送り、農村地域の音楽教育環境の整備と音楽教師の資質向上、及び素質教育の発展にも寄与しています。

本日、皆様がこの短い交流の時間を大事にし、開かれた心と実務的な態度をもって交流を行い、互いを見習い、高め合うことを願っております。

音楽は国境を越える言葉であり、美しい世界を見せてくれます。皆様もきっと美しい音楽に心を打たれた経験はあるかと存じます。ここにいる音楽教師の皆様の努力を通して、農村地域の少年児童に音楽の美に触れさせることは、子供達がその生涯において音楽を楽しみ、より豊かな人生を歩んでいくことにもなると信じております。

最後に、今回の音楽教育交流会の円満な成功と先生方のご活躍をお祈りし、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございます。



東平県教育局代表挨拶

山東省泰安市東平県教育局局長 何 冰

尊敬する専門家、先生の皆様、本日、中国宋慶齡基金会、日中国際教育協会のご尽力により、「農村中・小学校音楽教師教育交流活動」を開催でき、東平の教育事業、特に音楽教育振興のためにご経験を拝聴し、ご指導を仰ぐ機会が得られることは、誠に嬉しい限りであります。まず、東平県教育局党委員会を代表し、ご来賓の皆様に対し、熱烈な歓迎の意を表したいと思います。

2012年以来、中国宋慶齡基金会は我が県の教育のために資金200万元余りを寄付してきました。そのうち、商老庄郷中心小学校の建設のためには40万元を寄付し、2013年に彭集鎮馬代村小学校には100万元に相当するスクールバスを3台寄付し、2014年に大羊鎮中心小学校の建設のために40万元、パソコン20台を寄付したとともに、小学生10名を北京での夏合宿イベントに招待し、農村の子供に山の向こうの世界と触れ合う機会を儲け、子供達の視野を広げるための支援をしました。日共同プロジェクト委員会は中国宋慶齡基金会を通じて我が県の小学校7校に辞書を3000冊余りとバトミントンラケット、筆などの用品を寄付しました。中国宋慶齡基金会、日中国際教育交流協会は何度も我が県へお越しください、音楽教育を観察され、農村音楽教師と交流を深めてきました。今年5月に我が県の5つの貧困小学校に電子ピアノ、二胡、ドラムセット、ハーモニカなどの楽器を寄付し、また本日には我が県の40名の中・小学校音楽教員を対象に教育指導を行い、交流するところになります。薔薇を差し出す手には常に良い香りが残るという諺がありますように、皆様が本日蒔いた愛の種もいつかはきっと希望の花を咲かせることになる信じております。東平県教育局党委員会を代表し、東平県の教育事業に多大なるご关心とご支援くださった宋慶齡基金会、日中国際教育交流協会に対し、再び感謝申し上げます。また、遠路はるばる東平までお越しいただきました専門家、先生の皆様方に心から歓迎の意を表したいと思います。

東平は山東省の南西部に位置し、11の郷鎮、3つの街道事務所、716の村落を管轄し、総人口は80万人に達しています。県全体は各種類、各レベルの学校136校あります。そのうち小学校109校、中学校19校、一般高校3校、私立校3校、また、職業専門中学校と特別教育学校はそれぞれ1校あり、在学生は全員で82962人います。近年、県党委員会・県政府の力強い指導の下、東平の教育事業は勃興し、教育の質が絶えず向上しているとともに、県民の満足度も上がってきています。しかし諸原因あって、東平の教育環境と教育水準は先進地域に比べてなお大きな差があります。とりわけ音楽、体育、美術教育などが短所になっています。本日の交流活動の開催は、まさに私たちの望むところであり、我が県の教育水準を引き上げる上で大きな役割を果たしてくれる信じております。

世界で音楽教育を重視する国は数多くあります。二千年前の中国の有名な教育家、「聖人」と呼ばれる孔子も音楽愛好家と音楽教育の推奨者であり、「国民の気風を変えるのに音楽に勝るものはない」という言葉を残しています。古代ギリシャの哲学者・プラトンも「教育の中で、体の世話をするのは体育であり、魂の世話をするのは音楽である」と話しています。美しい音楽に常に触れることによって、人間の思想や感情が知らず知らずのうちに感化され、高尚な品性と情操が形成されていきます。人間の創造力を司るのは右脳であり、ノーベル賞受賞者の大半は右脳が発達している人間であることはすでに現代医学で証明されています。音楽は聴覚の芸術であり、メロディーによって人間の感覚器官に直接訴えかけ、脳の中でイメージとしての音楽が形成されます。つまり、右脳の活性化には音楽が欠かせず、知能発達に対して音楽が今までなく大きな役割を果たしています。偉大な科学者アインシュタインは「私の科学的発見は音楽に啓発されるところが大きい」と話し、作家のヒューゴーも「数字、アルファベットと音符は人間の知の宝庫を開ける3つの鍵だ」という言葉を残しています。これら全ては国民の教養を上の音楽の役割を語っています。音楽教育は音楽家を育成するためだけにあるものではありません。教育対象の全て、特に子供に小さい時から音楽の美に触れさせることは、芸術に対する感性を豊かにすることにつながり、子供の創造性を引き出すことにも役立ちます。音楽は美しい言葉であり、音楽を学ぶ子は悪い子にはなりません。これは音楽教育の最も重要な効果であり、教育における音楽教育の位置付けはこの通りです。本日ご在席の音楽の先生の皆様は子供の潜在能力の開発者であり、皆様の仕事は崇高で光栄なものであり、皆様の肩にかかる責任は重いと言わざるを得ません。



目下、山東省基礎教育総合改革は全面的な実施段階に入っています。実施目標は、生徒全体に向かって、芸術教育資源を合理的に配置し、各レベル各種類の学校の芸術教育を統括・推進すること、芸術教育保証制度を整備・強化し、国家カリキュラム計画に沿って芸術科目を開設し、内容を充実させること、また、それらによって学校の芸術教育が新たなスタートラインで科学的に発展するのを促進することです。三年間を費やし、高水準の中堅専任芸術教員を千名育成し、生徒芸術サークル一万個の立ち上げを支援します。評価面では、2015年より、中小学校と中等職業学校の生徒を対象に芸術素質評価を始めました。芸術教師の評価制度を作り上げ、教師のパフォーマンスを全面的に評価し、業績を重点的に考察します。考察内容には成績と芸術活動の効果が含まれており、評価結果は教師資格の定期更新、優秀教師の選定、及び職級の評価における重要な材料となります。これにより、私たちは全身全霊仕事に打ち込み、たゆまぬ努力で子供たちの健康で全面的な発展を支えていきます。

最後に、ご在席の皆様、先生の皆様のご景勝とご活躍をお祈り、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

(4) 音楽教育交流会発表内容

交流1 心と心が通い合う素敵な瞬間

磐田市立富士見小学校 神谷比登美

「こんにちは」「ニーハオ」と挨拶をすると、会場に集まった約30人の笑顔が返ってきました。温かな雰囲気の中で迎えていただいたのは、関係者の事前準備のお陰と感謝し、交流会の幕開けとなりました。また、リオデジャネイロ五輪で、日本と中国がメダルをかけて競い合った直後でもあったので、この交流会を、両国が、より身近に感じることができる好機であるとも捉えました。そこで、「中国は卓球が強いですね。金メダルおめでとうございます。私たちは、日本から出場した男子卓球の水谷隼選手、女子卓球の伊藤美誠選手が育った磐田市（二人とも隣の小学校出身）から来ました。彼らは、卓球で友情を深めたところですが、私たちは、音楽で友情を深めたいと思います。」と、率直な気持ちを伝えた後、本題に入りました。

1 音楽教育の小学校教育課程（カリキュラム）について

(1) 学習指導要領

日本では、国の教育水準を確保するために、小学校6年間・中学校3年間の計9年間を義務教育としています。音楽教育の在り方については、学習指導要領の中に、学年ごと指導すべき目標や内容がきちんと示されていますので、系統性を考えて作成された教育課程（カリキュラム）に沿って、発達段階を踏まえた指導を行うことにより、子どもたちの学びが積み重なっていくことを話しました。始めに、学習指導要領は、学校の立地や規模に関係なく、全国、どこの小学校においても、音楽教育の基準であることを伝えようとしたが、格差のない状況であることを理解は難しい様子でした。

次に、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の4つの活動ごとに指導事項が示されていること、いずれの活動においても、共通して指導する事項（共通事項）として「音楽を形づくっている要素」（例えば「音色」「リズム」など）が示されていることに焦点を絞って話しました。この要素を「聴き取る」あるいは「感じ取る」ことの対象として、すべての活動の中で扱うことは、現行の学習指導要領で重視している部分ですので、中国語で翻訳していただいた資料を見ながら聞いていただきました。ここで、具体的には、交流2（本校の音楽教師が行う模擬授業）の中で体験していただくことを予告しておきました。

(2) 器楽指導

「本校では、9月になると、小学校1年生が、鍵盤ハーモニカの練習を始めます。」と言って、実物を見せたところ、見たことや使ったことがある参加者は、僅かでしたが、興味・関心度は非常に高い様子でした。そこで、系統性を踏まえた器楽指導の例として、鍵盤ハーモニカを使い説明することにしました。

1年生に、鍵盤ハーモニカを自由に吹かせてみると、「右の方を押すと高い音が出るよ。」「左の方を押すと低い音が出るよ。」「黒いところを押すとバスのクラクションに似た音が出るね。」と、色々な音を見つけて遊びます。教師は、子どもたちと鍵盤ハーモニカとの出会いを大切にするとともに、「音色」など

に注目させつつ基本となる奏法を身に付けるための指導もしていきます。「まねっこ遊び」の感覚で、タンギング、指の体操、指番号唱、階名唱を紹介したところ、参加者の方から率先して階名唱を口ずさむ状況が生まれました。正に、心と心が通い合う素敵な瞬間でした。(即座に反応してくださったことに感謝!)



(「まねっこ遊び」の様子を撮影する中国の参加者)

2年生になると、ポジション移動による「指のお引っ越し」、3年生になると「指くぐり」「指またぎ」の奏法を学び、演奏技術を高めます。そして、慣れてくると、鍵盤ハーモニカを手に持つて演奏するようになります。この過程を実演したところ、参加者の視線が、私の手元にある鍵盤ハーモニカに集まり、管から立奏唄口への付け替えまで熱心に確認し、うなずいてくださいました。

更に、3年生から加わるソプラノリコーダーを使っての器楽指導の紹介へと話を進めていきましたが、話しやすいと感じる状況は続き、とてもよい時間を共有することができました。

私は、音楽の授業で大切なことは「聴く」ことだと思っています。何を「聴く」のかというと、学習指導要領にある「共通事項：音楽を形づくっている要素」です。例えば、「音色」「リズム」に着目した場合は、今、出している音は、強いか弱いか、かたいのかやわらかいのか、歯切れがよいのかなめらかなのかなどです。これらを聴き分けることができるようになると、「やわらかい音色だからやさしい気持ちになるね。」「心がうきうきすることを表現するためにスタッカートのリズムを使ってみよう。」と、自ら感じ表現する子どもたちの姿が見られるようになると考えるからです。このことを、同じ音楽教師として伝えたり、つい、熱く語ってしまいました。こちらの思いを瞬時に受け止め、参加者に届けてくださった通訳の方にも深く感謝いたします。

2 質疑・応答

次のような質問がありましたので、回答しました。

Q1 農村の学校にも楽器があり、今日のような指導をしていますか。
A1 日本中すべての学校において、学習指導要領に沿って今日のような指導をしています。

Q2 音楽の授業時数はどれくらいありますか。歌唱指導は、毎時間行いますか。

A2 音楽の授業時数は、学年で違います。
1・2年生は年間70時間程度、5・6年生は50時間です。週あたり1時間から2時間になります。学習指導要領に沿って、歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞の活動をバランスよく指導しています。



(真剣な表情で熱心に質問する中国の参加者)

Q3 学校には、音楽の専門教師がどれくらい入っていますか。
A3 中学校では、音楽の免許を持っている者が授業を行います。小学校では、小学校教諭の免許を持っている者が授業を行いますが、音楽が専門とは限りません。

Q4 伝統音楽の扱いをどのようにしていますか。
A4 歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞教材として伝統音楽に関するものも扱っています。例えば、雅楽に触れ、日本に昔からある琴、三味線などの楽器に親しむ活動を行うなどです。

Q5 中国では、日本の歌（「さくら」、アニメソング等）が教材として教科書に取り上げられており、日本の音楽の影響を受けていると言えます。日本の教科書の中で中国の曲を扱っていますか。

A5 私たちが使用している教科書には、中国の「まつり花」が鑑賞教材として取り上げられています。

3 感想

両国の共通点として、「音楽を形づくっている要素」（音色、リズム、速度、旋律、強弱等）に着目していること、授業改善の方向性として主体的・対話的な深い学びの実現が求められていることを認識していることが確認できました。特に「教えることだけに注目しないで、学ぶ過程に注目する」という言葉が印象的でした。

今回の交流により、音楽を通じて国境を超えて互いに友好を深めていくという見通しを持つことができたことは、大きな収穫でした。次年度は、本校において、学習指導要領に準じた学習を、教師の創意工夫により展開する中で、子どもたちが楽しく主体的に学ぶ様子をゆっくり参観していただければ幸いです。

如何に普通学校で音楽授業を良く実施するか

東原実験学校 李 静

尊敬されている各位の来客、幹部、先生達こんにちは。

今日は教師の代表としてここで発表することに光栄に思います。今は「如何に普通学校で音楽授業を良く実施するか」について、自分の感想を発表いたします。どうぞご指摘くださいますようお願いします。

(発表骨子)

一、教学の目標を明確にすべきです。具体的には、『音楽課程標準』の理念に基づき、音楽学科の特徴に相応しく、生徒の実際に関連し、全過程で実行します。

今回の授業の導入には、映画『江姐』の『繡红旗』の画面を使いました。生徒に红旗の象徴する意味を理解してもらうと同時に、音楽を理解するための知識上の準備もします。また、授業の気分基調も定められます。これからは、私は生徒と一緒に『紅旗頌』を段落的に視聴し、厳しい時代を思い出し、勇壮な深い情を体得します。



二、教学準備の面では、私は「生徒のことを理解し、『課程標準』を把握し、教材と教法を研鑽することが非常に大事である」と思います。

私たちは農村にいます。生徒たちはコンサートホールに行く機会もないし、上品な交響楽を聞くこともできません。ですので、音楽教材の中にある民族性、伝統性の古典作品に対して、見知らぬ人が多く、拒否する人さえいます。音楽は聴覚の芸術です。生徒たちがどんな音楽が好きか、或いは嫌いかはそれぞれ違います。音楽教學は生徒の趣味に尊重し、ただし譲歩するわけではありません。

三、教学の内容については、音楽の意味を掘り下げ、生徒の音楽鑑賞能力を刺激することを重視します。

例えば、『桜』という曲を教える際に、生徒たちに日本の桜に関する文化を理解してもらうようにします。聞く、鑑賞する、歌う、分析するなどの形式を利用し、日本の民謡スタイルの特徴を学生に体験してもらいます。

四、音楽の授業をする際に、音楽美学性を反映し、音楽に対する気持ち、表現、興味を引き立てられるように工夫します。教室ではリラックスとした雰囲気を作り上げます。対象に応じて異なる方法で教育を施します。私は以下の4つの要素から自分の体験談を説明したいです。

1、「情」は音楽教育の基本条件です。

まず、音楽は時間の芸術、聴覚の芸術、情感の芸術です。音楽には鮮明なイメージ、生き生きとした巻物絵、豊かな人生、美しい世界があります。音楽が無制限の空想の時空を与えます。あなたに濃厚な感情

を体験させます。

2、「美」は音楽教育の基本特徴です。

音楽教學は一つの実践活動であり、「美」を表現する過程にもなります。教學を実践する際に、先生の言葉使い、姿態、行動、範唱、演奏と学生の歌、演技、参加などは「美」のルールに基づかなければなりません。

3、「活」は音楽教育の基本方略です。

音楽の授業では、以下の方式を採用し、授業を行っています。例えば、インスピアイア式、討論式、探究式、協力式、及び再編法、対比法、選択法、激励法、分解法などがあります。

4、「実」は音楽教育の基本保障です。

「実」は実践、参加を表します。音楽の教學の中で、生徒に主導的に授業に参加する時間と空間を与える必要があります。雰囲気を作り、状況を設置し、生徒に音楽を実感し、体験し、表現し、創造するように工夫します。実践に参加する形式や方法、内容が豊かで、形式にこだわらないことがポイントとしておきます。

五、多様な評価を利用し、生徒の身心発展を重視します。

1、横方向の評価と縦方向の評価を結合し、生徒の能力を測ります。

横方向の評価は他人と比較する間に形成した激励効果であり、縦方向の評価は自分と比較する間に形成した激励効果となります。授業を行う際に、生徒に対して横方向と縦方向の両方の評価を実施する必要があります。

2、静態評価と動態評価を結合し、学生の感情緯度に注目する。

静態評価とは、今まで現れた現象と事実に基づき、定性的或いは定量的に評価することを指します。動態評価とは、現象と事実に基づき、その予期の効果を非定性的或いは非定量的に評価することを指します。

六、先生の素養は音楽授業がうまく実施できる条件となります。

1、先生の豊富な知識は授業の効率を高める保障となります。

いい授業を実施するためには、先生は豊富な専門知識を持つことが要求されます。それだけではなく、現代化教学設備を操作する能力も備える必要があります。

2、科学的な教学目標は授業の方向となります。

教学の目標は課程の教學に対して、導く役割を果たします。先生は教学目標に基づいて教学方法を設定し、教学手段を選択し、教学の過程をコントロールします。教学目標はとても重要です。

3、臨機応変能力は授業を順調に実施できる保障となります。

ソ連の有名な教育者アントン・マカレンコは「教育のスキルは臨機応变にある」という言葉を言いました。先生と生徒の関係は仲よくしているかどうか、教学の提携は調和されているかどうか、ティーチングの方法は機敏で多様であるかどうかは、先生の臨機応変能力の高さを表しています。素養が比較的に高い音楽教師は良好な臨機応変能力を備えます。

4、専門の特徴を十分に表現し、美を表現する使者になります。

音楽学科領域において、「歌う」、「演奏する」、「踊る」はすべての音楽教師が備えるべく基礎能力となります。「歌う」とはすなわち歌う能力、或いは自分でピアノを弾きながら歌う能力を指します。音楽教育の中で、先生の声もよく情調もたっぷりとした歌声は、その先生が基本の音楽素養が備えているかどうかを判断する基準の一つです。「演奏する」とはピアノを弾く能力、或いは即興的に伴奏をする能力を指します。熟練で且つ様々な曲を即興的に伴奏できる能力を備えたからこそ、良好な音楽教育雰囲気を築くことができます。「踊る」はすなわちダンスをパフォーマンスする能力です。先生は生徒の活発で、真似したい特徴を掴み、自分のボディーランゲージを通して生徒を引導し、音楽をするようにします。音楽教師は美を伝達する使者です。授業では自分の特長を十分に利用し、自分の美に対する悟性を通じて、生徒たちを感染します。

以上は私が音楽授業をうまく実施するための体験談となります。どうぞご指摘ください。

交流2 模擬授業を通した日中音楽交流

磐田市立富士見小学校 安藤 佐織

1、参加型の模擬授業

日本の音楽の授業を分かりやすく伝えるためには、参加型の模擬授業が効果的であると考え、小学校4年生の音楽づくり（リズムアンサンブル）の授業を行った。まず、授業の導入では、アイスブレイクとして低学年のリズム遊びを行った。中国の教師の皆さんには、すぐにこちらの意図を汲んでくださり、全体やペアでのリズム遊びに積極的に参加してくださった。ペアになり、即興的にリズムを作るという活動は、中国の方にとっては新鮮であったように見受けられた。

本時では、学習指導要領で示されている内容のうち、リズムや音楽の仕組み（問い合わせ、反復、変化）を扱うことを、リズム楽譜を提示して説明し、リズムアンサンブルのやり方を示した。すると、中国の皆さんの反応が早く、FUJISANの言葉に合わせて手拍子でリズムを確かめる方がいらっしゃった。

こちらの提示に対し、素早く反応してくださる様子を見て、うれしいと思うと同時に、指導法への関心の高さと熱心さは同じ教師として通じるものがあると感じた。



2、日本「富士山」と中国「泰山」

本教材は、4文字の様々な言葉とリズムでアンサンブルを作ることができるため、今回は、富士山（FUJISAN）で行った。（ここでは、中国の泰山TAISANでもできることを伝えた）。

富士山の写真を示すと、すぐに「富士山」と答えてくださり、グループでのリズム練習を楽しみながら積的に取り組んでくださいました。

グループの発表後、富士山の曲に合わせて、全グループのリズムをつなげて演奏をした。短時間の練習にも関わらず、全体がぴったり合った演奏はすばらしく、音楽の楽しさを改めて実感した。

正に、音楽に国境はないと感じた時だった。

普段の授業でも、児童はもちろんのこと、教師も一緒に音楽を楽しめたことが理想的だと感じた。

中国の方の発表に、児童の主体性を重視しているという説明があった。これは、日本でも同じことである。児童が主体的に学習できるよう、今後も教材研究に努めたい。



今回の交流会を通し、模擬授業で、大変協力的だった中国の教師の方々と、音楽を通した日中の教育交流の機会をいただけたことに感謝したい。

日中音楽教育交流会 模擬授業指導案

1. 日 時 8月22日(月) 午後の部

2. ねらい リズムモチーフをもとに、リズムの繰り返し・問い合わせ・変化を使ってリズムアンサンブルをつくることができる。

	学習活動	留意点
5分	<p>1. ウォーミングアップ（アイスブレイク） 拍を感じて、リズム遊びを楽しむ ○リズムまねっこ 安藤→全員 1分 ○リズムしりとり ①安藤→神谷校長→安→神→ 1分 ②2人組または3人組 3分</p>	<p>リズムしりとり リズムの問答、繰り返し、組み合わせ</p>
11分	<p>2. めあてを確認する 1分 リズムをくり返したり、変化させたりしてグループでリズムアンサンブルをつくろう。 ① やり方を示す。問答、くり返し、変化についておさえる 2分 安藤 ふじさん ● ● ● ● ふじさん ● ● ● ● 神谷 ● ● ● ● ふじさん ● ● ● ● ふじさん ● ● ● ●</p> <p>安藤 ふじさん ● ● ● ● ふじさん ふじさん ふじさん ● ● ふじさん 神谷 ● ● ふじさん ふじさん ● ● ふ 一 じ 一 さ 一 ん 一</p> <p>② 全員で①の「ふじさん」をやってみる 2分 ※全体を2グループに分ける ③ グループでリズムアンサンブルをつくる 3分 A ふじさん ● ● ふじさん ● ● ふじさん ● ● ふじさん B ● ふじさん ● ● ふじさん ● ● ふじさん ● ● ふじさん</p> <p>C ふじさん ふじさん ふじさん ふじさん ふ 一 じ 一 さ 一 ん 一 D ふじさん ふじさん ふじさん ふじさん ふじさん ● ● ふじさん</p> <p>E ● ● ふじさん ● ● ふじさん ふ 一 じ 一 さ 一 ん 一 F ふじさん ふじさん ふじさん ● ● ふじさん ふじさん ● ● ふじさん</p> <p>④ グループ発表 A B→C D→E F→全員 3分</p>	<p>1時間のめあてを明確にし、児童が主体的に学習できるようにすることを補足する。</p> <p>・本来は、グループで相談させてアンサンブルをつくる。今回は、事前につくってあるA~Fをグループに配布し、練習する。</p> <p>・手拍子以外に、ボディパーカッションにすると音に変化が出ることや、強弱を工夫すると全体的に変化が出ることを伝える。</p> <p>・グループ練習際の指導（褒める、助言等）について伝える。</p>
4分	<p>3. 学習したことを確かめる 4分 リズムをくり返したり、変化させたりして、組み合わせを工夫すると楽しくリズムアンサンブルができることが分かった。(A)(B)のリズムを合わせる練習が楽しかった。</p> <p>「ふじ山」の曲に合わせてリズム伴奏をする リコーダー：神谷校長、安藤 リズム：AB→CD→EF→全員 (各グループ 4小節ずつ)</p>	

教師は授業のガイドであり、学生は勉強の主人公である

——本当の音楽授業を生徒たちに返す——

第四実験小学校 李 志偉

歌を勉強することは生徒にとって楽しいことです。メロディーが美しく、情操を陶冶します。生徒の審美情趣も高めます。ただし、私たちの音楽の授業では、先生たちは発音の練習や、ドレミファの練習などを経て、曲を教えます。美しい曲だったが、分解されたせいで、美感を失ってしまいます。特に公開する授業では、教師の能力を展示する場になり、学生は観衆になってしまいます。一コマの授業を経て、教師はぐっしょり汗を搔いて、のどが渇いて、心も体も疲れてしまいます。教師は授業の主人公になり、生徒は脇役になってしまいます。このような授業は生徒達にとって勉強できる知識が少なく、童謡メドレーの一部でも身につけることができません。したがって、私たち教師は、生徒たちの年齢の特徴や心身の特徴に合わせて、授業を行うべきだと思います。

現在は教育施設が発達しています。各教室ではマルチメディアを利用しています。これは音楽教育にとって最大のメリットになります。マルチメディアは視覚聴覚を一体化にして、美しい音楽ときれいな画面はセットになって、生徒に視覚と聴覚の享受を与えます。まるでその場にいるように感じます。生徒が音楽を勉強する意識を高めます。

教師はきっと次のような教育体験を持っています。新しい曲を勉強する際に、教師はまず一言も教えずに、マルチメディアでインターネットを通じて、あるいはMV、MP3でその曲を何回も放送します。一曲の歌で生徒たちはただ3回から5回を聞くだけで、その曲の80%を覚えることができます。その曲の難しい部分だけ生徒にとって困難です。例えば、複雑なリズムや音の高さなどです。この時だけ、教師はその難しい部分を説明することで、生徒たちに音楽知識を伝えます。このように、生徒は曲の難しい部分をマスターし、知識を勉強することができ、教師は体力を節約し、半分の労力で倍の成果を得ることができます。このようなことを教師たちが早く試してほしいと思います。きっと音楽教育の楽しさを会得することができます。

前学期は私が2つの学年のクラスを担当しました。2年生と4年生でした。生徒の年齢特徴および取得した知識に基づき、これからは私がこの2つの学年で授業を実施する際の教育設計を紹介したいと思います。(2年生は『大鹿』、4年生は『潮干狩りの娘』となります。)

2年生の歌教室

1. 皆さん、今日は皆さんのために一つの絵を持ってきました。この絵の中には何種類の動物がありますか？
(教師は曲『大鹿』のイラストをスクリーンに映します)
2. 皆さん大鹿、ウサギ、ハンターの獵銃を見ましたね。どんな話なのか皆さん知っていますか？
(教師は歌詞を読んで、生徒に感知させます。)
3. 皆さん、先生と一緒に表情をつけてこのストリーを読んでくださいね。(生徒は2年生の子供ですので、一部分の単語は生徒が読めないです。歌詞を読むことを通じて、歌の内容をわかると同時に、朗読のテクニックと情緒を勉強することができます。生徒は声もよく情調もたっぷりに歌詞を読むことで、歌詞を認識できるようになります。)

皆さん、動作でこのストリーを表現することができますか？(この段階では、生徒達が先生の啓発の下で踊り、動作を通じて歌詞を覚えるようになります。)

大鹿は部屋の中に立っています。

窓を通して眺めています。

森から走ってきたウサギちゃんはドアをノックした。

鹿、鹿早くドアを開けてください。

ハンターは追い駆けてきました。

ウサギちゃん、ウサギちゃんどうぞ早く入ってください。



私たちは手をつないでね。
鹿、鹿早くドアを開けてください。
ハンターは追い駆けてきました。
ウサギちゃん、ウサギちゃんとどうぞ早く入ってください。
私たちは手をつないでね。

- 4、このストリーは皆話せるようになり、動作で表現することができ、今度は皆で歌うことができるのでしょうか。(先生はこの歌を3回も放送します。1回目は生徒に歌わせないで、聞くだけにします。聞くことができたら、生徒がやっと正しく歌えます。2回目は生徒に口だけ合わせて、音を出さないようにして、スクリーンに合わせて歌います。3回目は生徒に鼻で歌わせます。歌いにくい部分を見つけるようにします。)
- 5、難しい部分も皆さんできるようになったので、今度はピアノに合わせてトータルのストリーを歌えましょう。(先生は生徒の歌声を、息、リズムなどの方面から診断し、修正します。)
- 6、最後は様々な形式で学生に歌わせてもらい、授業を終了します。

4年生の歌教室

- 1、皆さん、今日は次の歌を皆で歌います。この歌の初めての段落を5回も放送します。80%の生徒がこの歌を歌えるようになると思いますが、皆自信がありますか。(歌を5回も聞きます。)
- 2、皆さん、この歌の最初の段落を5回も聞きました。どの部分が難しく感じましたか。挙手で教えてください。(学生の質問に基づき、難しい部分を一つずつ説明し、学生に理解してもらうようにします。)
- 3、皆さん、次には、先生がピアノを弾きます。皆さんはピアノに合わせてこの歌の最初の段落を歌えましょう。(先生は生徒の歌声を、息、リズムなどの方面から診断し、修正します。)
- 4、皆さん、中国語の授業で記述文章の要素を勉強したことがありますね。記述文章の要素には時間、場所、人物、事件などがあります。これから先生がこの歌を歌いますので、それぞれどの要素に当たるかを教えてください。(記述文章の要素で歌詞を覚えます。)
ふかふかのビーチ、金色の砂（場所）
潮干狩りの小娘、裸足になる（人物）
珊瑚礁でホラガイを1個拾った（事件）
水たまりのエビを捕まつた（事件）
探して探して探して探す
掘って掘って掘って掘る（労働の大変さ）
小さなかごに入れられない
入れられない（労働の収穫と喜び）
- 5、さんは歌いながら踊ることができますか。(動作を作り、歌詞を覚えます。)
- 6、歌を表現します(学生の特徴に基づき、チームに分けて舞台で歌を演じます。声楽組、舞踏組、楽器組にチームを分けます。演技をしない生徒は審査員になり、演技をする生徒のいいところと改善すべきところを指摘します。)
- 7、授業のまとめをします。最後に歌を歌い、先生は伴奏し、皆の歌声で授業を終了させます。

私たちは生徒たちのために授業を実施する先生です。道を伝え、業を授け、惑いを解く教師です。舞台に立つ役者ではありません。私たちの基本功はもちろん重要です。しっかりとした基本功を備えることを前提にし、心を落ち着いて教学を研究します。生徒たちの年齢特徴および認知法則に基づいて、授業を準備します。生徒たちは本当の音楽授業の主人公になってもらうようにします。また、先生の教育啓発の下に、音楽を感知させ、勉強してもらうようにします。さらに、生徒たちの情操を養い、知恵を啓発し、授業の効率を高めるようにします。

(5) 音楽教育交流会感想

2016年度 日中音楽教育交流を終えて

静岡県教職員組合 鈴木 伸昭

昨年度に引き続き、宋慶齡基金会との協同による山東省泰安市東平県との教育交流に参加させていただきました。昨年度は今後の交流のあり方を模索するための現地学校訪問及び教育関係者との懇談・協議があり、今回はそれらを踏まえた相互の音楽交流ということで、まずは東平県において日中両国の音楽教員による実践交流が企画されました。さらに次年度には、宋慶齡基金会と東平県教育局及び現地音楽教員を日本に招いての音楽教育交流を実施することが企図され、静岡県内の学校訪問を要請されました。そのため、次年度の受入れを了承くださった磐田市立富士見小学校の神谷比登美校長先生と安藤佐織先生（音楽教諭）に今回の訪中をお願いし、現地視察と教員交流を通じて、本交流の趣旨や実情をご理解いただけるよう努めました。

さて、今回の訪中にあたっては、神谷先生と安藤先生にプロジェクトの趣旨や背景を理解していただくための説明をどのようにすればよいかという課題が自分の責務としてまず覆いかぶさっていました。「(公財)日中國際教育交流協会」と「宋慶齡基金会」という団体の概要、このような教育交流が行われてきた背景、これまでの実績・成果といったことから始まり、静岡県教職員組合との関係や交流を通じて日中両国の教員が得ようとしているもの等々、基本的なことから自分なりに整理してみて、私自身が学ぶところが多かった次第です。

東平県東原実験学校で行われた日中音楽教育交流会は、短い時間でしたが非常に興味深いものでした。現地での会場・施設の様子や参加者数、音楽教育に関する専門性の度合い等は事前に十分に得られなかったため、若干の不安が先立ちましたが、しっかりとした校舎のホールに40人近くの先生方に歓迎していただき、この交流に向けての意欲的な姿勢を窺い知りました。

神谷校長先生には、日本の小学校における音楽教育の概要をコンパクトに説明いただき、その具体について鍵盤ハーモニカとアルトリコーダーを使った例示をしていただきました。私のように音楽指導の素人でも理解しやすい説明であり、東平県の先生方にとっても同様であったと思います。通訳を介し限られた時間の中でも必要な事柄を適切に伝えられ、神谷先生の豊富な経験と事前の入念な準備に裏付けられた素晴らしい発表でした。さらに安藤先生には、神谷校長先生の総論を基に現地音楽教員を子どもに見立てた模擬授業を行っていただきました。これもまた、四拍子のリズムアンサンブルを作るという実際の活動を通じて、日本の小学校の教室で展開されている授業風景を容易に想像できるもので、素晴らしい発表でした。交流会の冒頭に東平県教育局局長が「音楽は言葉を越えて通じ合うものがある。」と述べていましたが、言葉による説明だけではなく、授業での活動を実際に

体験することを通じて指導の目的や指導法が伝わるのが音楽教育であると思った次第です。

東平県の教員の方からも、中国における音楽教育がめざすことや音楽指導実践について説明がありました。通訳を介する口頭での説明ではありましたが、中国における音楽教育の一端に触れる事ができました。音楽教育には全く疎い私ではありますが、日本の音楽教育と通ずる言葉が幾つも取り上げられていたことが印象に残った一方で、中国では自国を愛する気持ちを高めたり、伝統文化と絡めて音楽教育を行ったりすることに重きが置かれている点が特徴的であると受け止めました。

宋慶齡基金協会、東平県教育局、東原実験学校それぞ



の関係者の皆さんには、訪問にあたって細やかな心遣いをいただきました。ボリューム満点の昼食（給食？）には正直驚きを隠せませんでしたが歓迎の意がこもっているものであり、その美味しさを堪能しました。日中両国間には政治的な外交課題はあるにしても、こうした民間交流を通じて、同じアジアの近隣国として心の通じ合いができる人に感銘を受けました。また、今回の訪中を快くお引き受けいただいた神谷校長先生と安藤先生には、お二人とも大変忙しい日程の中、こちらの意図を的確に汲んでくださり、諸準備から当日の発表まで大変なご協力をいただいたことに感謝申し上げます。さらには、この企画に対して、磐田市教育委員会にも全面的な理解と配慮をいただいたことにも重ねて感謝申し上げます。次年度は中国からの訪日団を迎える、神谷校長先生の勤められる磐田市立富士見小学校を訪問していただく予定です。今回の交流を基に、次回も有意義な交流となるよう力を尽くしていきたいとの意を強くしました。

2016年8月22日 日中音楽教育交流会感想及び質問

（感想）

東平県大羊喜舍中心小学校 馮 華偉

8月22日、中国宋慶齡基金會と日本中國國際教育交流協會が主催した日中音楽教育交流会に参加する機会を得て、東平東原実験学校で行われた一連の交流活動を通して音楽教育のあり方について学びを深めました。

今回の交流活動で、日本側の先生と東平県の教員はそれぞれの授業設計を披露してくれました。それらを通して、私たちは音楽の授業をいかに進めればより良い効果が得られるか、いかに小学校の各段階に応じて科学的にカリキュラムを編成するか、いかに電子ピアノや鍵盤ハーモニカ、リコーダーを活用し、生徒の審美性を養い、鑑賞能力を伸ばすかについて学ぶことができました。今回の交流活動で私たちは小学校段階の音楽教育に対する理解を一新しました。



特に神谷比登美校長先生と安藤佐織先生の模擬授業では、会場における参加者全員が先生たちの指導の下で手を叩いたり歌ったりしてリズムアンサンブルを実際に作るなど、活発で心地よい授業の雰囲気を生徒として味わうことができ、神谷校長の教師としての魅力に感服しました。

今回の活動で私たちは斬新的な音楽教育理念と教育方法に触れることができ、今後、これらの素晴らしい理念と方法を音楽教育で活用し、生徒たちに学びとしての音楽だけでなく、遊びとしての音楽の魅力を感じさせ、更に生徒たちの表現力と審美性を一層伸ばしたいと思います。

商老庄郷中心小学校 陳 大猛

8月22日に東平県教育局、中国宋慶齡基金會と日本中國國際教育交流協會が共同主催した日中音楽教育交流会に参加しました。日中音楽教育の質の向上を目的とする今回の活動では、日本側の先生方からも、中国側の先生方からも貴重なお話を拝聴し、大変感銘を受けました。

交流会では、日本側の神谷比登美校長先生から富士見小学校の音楽教育について詳しく解説していただきました。紹介なさいました内容から、例えば日本の音楽学習指導要領の中で、学年ごとの音楽学習の目標や要求が明確に規定されているなど、日本の学校は音楽教育を重視し、生徒の音楽に対する愛好心や感受性及び音楽活動を行う基礎能力の育成に力を入れていることがよくわかります。

安藤佐織先生の音楽の模擬授業では、「フジサン」というわかりやすい言葉に様々なリズムを与えてリズムアンサンブルを作りました。リズムの変化や拍の流れを非常にわかりやすい方法で教え、つまらなくなりがちな練習を楽しいゲームに変える授業の工夫や、活発な授業の雰囲気など強く印象に残っています。そればかりでなく、模擬授業を円滑に進めるために事前にカードをきちんと用意し会場で教員たちに配ったことなどからも、日本の

先生方がいかに丁寧で熱心に授業を準備したかがうかがえます。

中国側では、東平実験学校の李靜先生と東平第四実験小学校の李志偉先生はそれぞれの経験を紹介し、日本の友人に東平県音楽教師の風采を見せました。二人はそれぞれ『一般学校での音楽授業のあり方』、『生徒が学びの主人公になるために』と題するご報告をなさいました。授業設計の際の考え方を聞いて、深く啓発されました。先生方の深い理論的な見識や豊富な経験、また個別的な授業展開などに私たち参加者は深く惹き付けられました。

1日と短い交流でしたが、私に深い思考を与えてくれました。今回の交流会を通して、日本の先進的な教育理念に触れ、これまでの考え方を刷新し、自身の不足を改めて認識しました。今回の交流会で学び取った理念と方法を仕事に生かし、その価値を最大限にしたいと思います。音楽教師として自身の専門的素養を發揮し、生徒に愛と知識を与え、子どもたちの健康で個別的な成長に見守っていきたいと思います。様々な教育方法を活用し、生徒の音楽に対する感受性、表現力、審美能力を培い、生徒たちにその人生において音楽の喜びを感じてもらえるように努力していきたいと思います。

大羊鎮裴洼小学校 裴 召文

8月22日に中国宋慶齡基金會、日本中國國際教育交流協會、東平県教育局が共同主催した日中音楽教育交流会は東平東原実験学校で行われました。私は宋慶齡基金會の寄付対象校の代表として今回の交流活動に参加する機会を得ました。

交流会で参加者は小学校での音楽教育カリキュラムと音楽授業実演という2つのテーマをめぐり意見を交流し、中日両方の教師代表の素晴らしい講演に現場は盛り上がりました。交流会は参加者全員に国や言葉の壁を越えるという音楽の魅力を見せる同時に、中日両国の先生たちはが音楽を介して心の交流を実現しました。参加者の一人として私も度々感動を受け、中日教育の違いについて認識を深めました。

理論面においても、教育実践においても、音楽教育法は極めて重要な課題です。実際の授業での教え方となるとまさに千差万別であり、共通で決まった形式がないと言っても過言ではありません。日本の学校音楽教育では「音楽鑑賞」と表現力を養う「声楽」「器楽」「音楽創作」など多様な教育法を総合的に活用しているが、それに対し、中国の小・中学校音楽教育で用いられる方法は相対的に単一で、一般的に「音楽鑑賞」と「歌唱」の二本立てになっています。音楽鑑賞における鑑賞材料の選択について、むやみに生徒の趣味に合わせポップ音楽を選び、民族音楽やクラシック音楽を軽視する傾向があり、生徒の審美性を高める上では課題が残っています。「歌唱教育法」は比較的伝統的な教育法ですが、しかし、実際の授業では新しい歌を覚えるのが唯一の目的になり、授業が歌の放送と練習の繰り返しになってしまふ例も少なくありません。生徒たちが正しく歌えるようになればそれで目標達成となり、関連の鑑賞や分析、解説及び創作の部分が欠けており、生徒の創作能力の育成の面では努力が足りません。

以上の比較を通して、改革開放以来著しい発展を遂げてきた中国の学校音楽教育でも、日本のような先進国音楽教育と比べればまだ大きな差が残っていることがよくわかります。中国の学校音楽教育の水準を向上させるためには、教育改革が必要です。まず、船員的な教育思想と理念を取り入れ、生徒の趣味や能力を考慮して生徒の創造力を引き出すことが必要です。また、先進的な教育法を積極的に学び、自身の教育方法を絶えず改善し、生徒の主体性と探究心を大事にし、音楽実践能力の育成に更に力を入れなければなりません。まだ課題が残っていますが、新しい時代に適応できる新しい教育理念と教育方法を模索し、教育を振興することこそ、私たち教育者の使命だと思います。



（質問：交流会当日に会場で出たもの）

1. 中学校の音楽授業で生徒がクラシック音楽や民族音楽に対して興味がなく、音楽鑑賞が難航しています。日本では同じような問題がありますか？学校と教師はどのように対処していますか？

2. 日本の学校で音楽の授業は週に何限ありますか？音楽の授業以外で生徒たちが音楽に触ることは多いですか？どのようなことがありますか？
3. 日本の伝統的な歌「さくら」は中国の小学校用音楽教科書に出ていますが、日本の音楽教材ではどのような歌がありますか？中国の音楽がありますか？
4. 日本の中学校の音楽教育は小学校での音楽教育との関連性はどうですか？中学校の音楽教育の難易度はどうですか？

第1回日中音楽教育交流会に参加して

日本中国国際教育交流協会
事務主任 石川 京子

当財団の仕事について2年が経ち、今回初めて中国へ行かせていただきました。事務の仕事を通して、中国という国を知っているような気持ちになっていましたが、実際に行ける機会をいただき前日からわくわくしていました。北京空港に降り立って空を見上げて噂に聞く大気汚染はなく驚きました。季節的な事もあるようですが、この後に行った【万里の長城】からは壮大な景色と、とてもきれいな青空を臨むことができました。

3日目の音楽交流においては「自国の音楽授業」を中国・日本の先生方が発表しました。発表の前は会場の空気が緊張している様子でした。発表が始まり、その過程で全員が一緒に歌を歌い、一緒にリズム体験をしているうちに次第に笑顔が見られるようになりました。この笑顔を見たとき、まさに両国が交流している瞬間を目撃していると感動しました。国家間の交流も民間の交流も同じだけ意味があり、大切なことだと思います。中国、日本の先生方も、お互いを本当に身近に感じて中国と日本について、新たなイメージを持ったことだと思います。両国間の報道が色々されていますが、実際にご自身が体験されて感じたことを大事にしていってもらえた嬉しいと思いました。

4日間を通して中国も夏休み中ということで、どこに行ってもたくさんの人がいましたので、泰山という歴史のある山に登った時はロープウェイを待つのに1時間半近く並びました。中国の方とぎゅうぎゅうと肩と肩のふれあいをして、人口が多いという事もまさに「体感」しました。でもその分、中国の人達を身近に感じることができ、とても親近感を覚えました。また道中を共にして下さった、基金会の劉さん、袁さん、通訳の王さんといろいろな事を話して、笑って、食事をしてという経験がより中国を知ることとなりました。本当にありがとうございました。(電車にも乗り遅れ…みんなで大笑いでました)

今回の訪問を通して価値観の違い、文化の違い、習慣の違いがあることは当然であり、その国に行けば自国の常識は非常識に値するかもしれませんと感じました。それを踏まえ良い悪いを言うことが間違いであり、大切なことは実際にその国に足を運んで、自分で見ること、またその国の方と一緒に何かを体験したり、対話することだと強く思いました。最後に訪問させていただいた宋慶齡基金会の井副主席が「百聞は一見に如かずです。」と言われましたが、本当にそれを体感・実感した4日間でした。貴重な経験ができ、会員の皆様に心より感謝致します。これからもより一層、仕事に邁進する所存です。ありがとうございました。



万里の長城にて

第4次宋慶齡基金会教育交流代表团の実施について(教育交流 受入事業)

2016年8月23日に、黒田文男代表理事・赤岡直人業務執行理事・鈴木伸昭理事の3名は、北京市にある中国宋慶齡基金会を訪問し、教育交流受入事業等について意見交換を行いました。その中で、2019年度に「第4次宋慶齡基金会教育交流代表团」の実施について確認されました。代表团については、新たな教育交流プロジェクトの実施地となっている山東省泰安市東平県の教育局・教職員を中心に編成することになりました。

(会談の様子等につきましては、資料【共生力25号】をご覧ください。) 48ページ参照



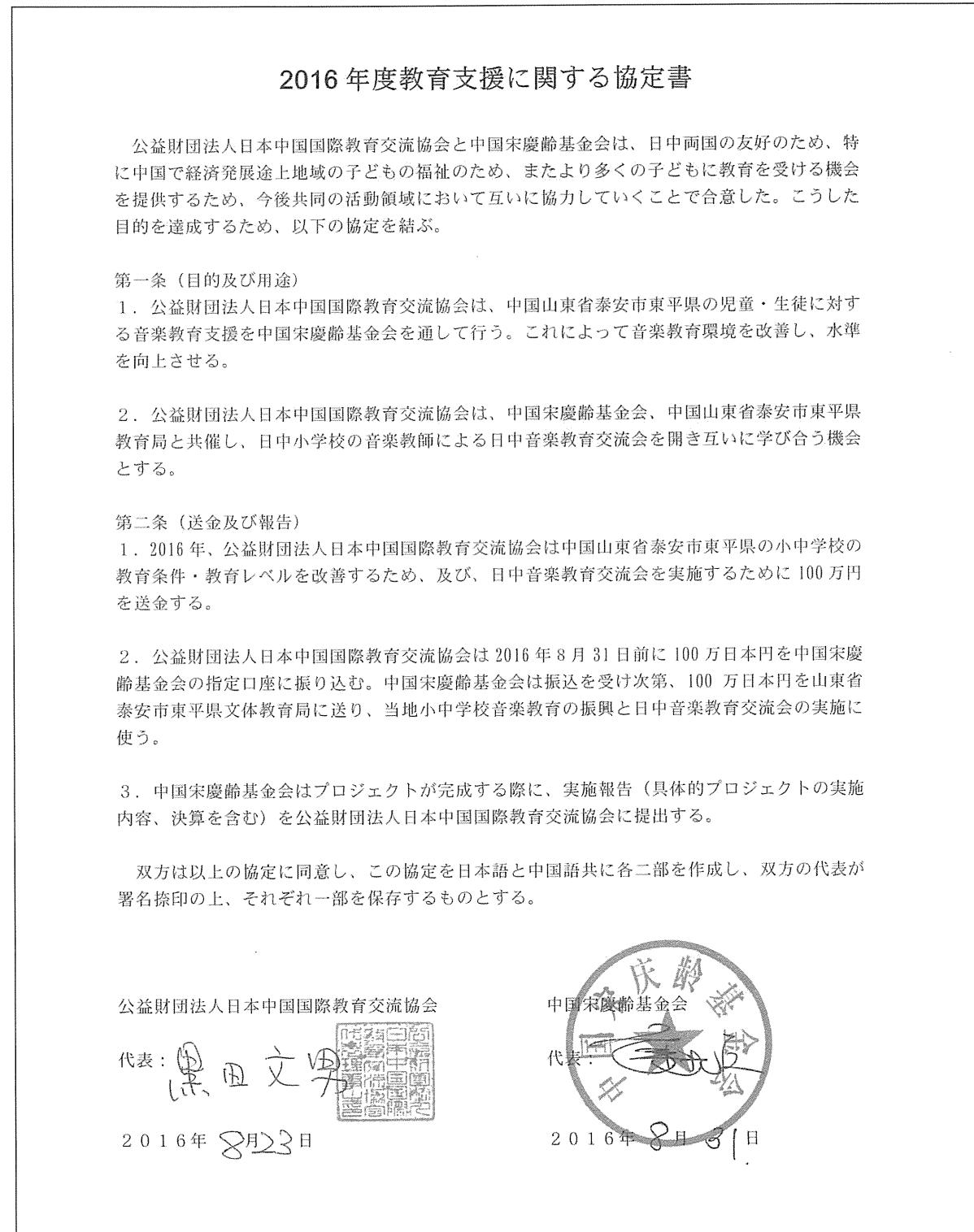
(1) 第4次宋慶齡基金会教育交流代表团受入計画案

1 目 的	・宋慶齡基金会及び基金会が推薦した東平県の音楽教師を日本に招き教育交流を行う。
2 期 日	2017年10月29日～11月1日 (3泊4日)
3 訪日団員	宋慶齡基金会 2名 東平県教育局 2名 東平県教師 4名
4 日 程	1日目 (29日<日>) 北京 → 羽田(成田) → 静岡 (静岡県浜松市泊) 2日目 (30日<月>) 磐田市立富士見小学校で音楽の研究授業 教育交流会 磐田市長・教育委員会表敬訪問 歓迎宴 (静岡県静岡市泊) 3日目 (31日<火>) 静岡 → 東京 静岡県知事表敬訪問 東京観光 (東京都泊) 4日目 (1日<水>) 羽田(成田) → 北京
5 費 用	○1日目の北京空港発から5日目の北京空港着までの諸経費(航空運賃・宿泊費・食費・移動費)は、協会が負担する。 ○航空チケット・宿泊・移動の手配は、旅行会社に任せる。 ○宿泊はホテルで、基本2人一部屋とする。 ○移動は、新幹線・JR在来線・ジャンボタクシー等で行う。

■ 山東省泰安市東平県音楽教育支援（教育交流 支援事業）

山東省泰安市東平県への新たな教育支援プロジェクトが開始されて2年目となりました。今年度は、泰安市東平県教育局及び宋慶齡基金との打ち合わせを通しながら、初めての試みとして行う「第1回日中音楽教育交流会」の取り組みへの支援と、東平県の小学校への音楽教育機器等の教育支援の内容を決定しました。今年度教育支援費100万円については、8月下旬の協定締結後、速やかに宋慶齡基金を窓口として、東平県教育局へ送金しました。

（1）2016年度教育支援に関する協定書



（2）東平県への楽器寄贈及び音楽教育交流活動の実施に関する報告について

中国宋慶齡基金、公益財団法人日本中国国際教育交流協会 殿

近年、中国宋慶齡基金、公益財団法人日本中国国際教育交流協会は、我が県の教育事業の発展に強い関心を持ち、我が県の一部地域の中学校・小学校では楽器が不足し教育理念が立ち遅れている現状を知り、2016年5月と2016年10月の2回にわたり我が県の大羊裴窪小学校など農村小学校10校に対し11万元相当の楽器を寄贈するとともに、8月に中日音楽教育交流活動を開催し、我が県の音楽教育事業の良好な発展を大きく促進することとなった。

楽器の充実は生徒の音楽への興味を大きく惹きつけた。まず、教師は生徒が各種楽器を知り、なるべく演奏できるように積極的に指導を行った。生徒の趣味や楽器の特徴に基づき様々なクラブを作り、簡単なところから始め段階的に難易度を上げる方法で、生徒に楽器の使い方と演奏方法を身につけさせ、学習の入門段階になるべく早く生徒たちを導いた。また、各学校は設備管理制度に基づき、楽器の利用を厳しく管理した。楽器は利用が便利なように保管され、徹底した防水・除湿措置が行われ、清潔な状態を保っている。定期的に手入れ、点検が行われ、完全な状態を保っている。さらに、楽器は授業で十分に活用され、利用率100%を達成した。損傷した楽器は迅速に修理され、音楽教育の正常な進行が保たれている。

中日音楽教育交流活動は我が県の音楽教育の発展に向け交流向上の場を提供した。日本人の先生方が紹介してくれた優秀な音楽教育資源と斬新な教育理念は我が県の音楽授業の質と教員能力の向上に寄与し、我が県の中学校・小学校における音楽教育の質の向上に大きく貢献した。

今後、我々は各種事業に積極的に取り組み、協力を一層推進し、我が県の教育事業がさらに健全で迅速な発展を遂げよう努力していく所存である。

2017年2月10日

山東省泰安市東平県教育局

（3）東平県各小学校への楽器分配情況について

学 校	名 称	規格型号	单 位	数 量	单 价	总 价(元)
明德小学	电子琴、琴架	CASIO CTK-1150	架	5	700	3500
	手风琴	金狮 96 B S	台	1	3560	3560
	架子鼓	YAMAHA 五鼓三镲	套	1	2000	2000
	竖笛	奇美 8 孔	支	30	40	1200
龙山联小	电子琴、琴架	CASIO CTK-1150	架	5	700	3500
	手风琴	金狮 96 B S	台	1	3560	3560
	架子鼓	YAMAHA 五鼓三镲	套	1	2000	2000
	竖笛	奇美 8 孔	支	30	40	1200
土安小学	电子琴、琴架	CASIO CTK-1150	架	5	700	3500
	手风琴	金狮 96 B S	台	1	3560	3560
	架子鼓	YAMAHA 五鼓三镲	套	1	2000	2000
	竖笛	奇美 8 孔	支	40	40	1600

学 校	名 称	规 格 型 号	单 位	数 量	单 价	总 价(元)
杨庄小学	电子琴、琴架	CASIO CTK-1150	架	5	700	3500
	手风琴	金狮 96 B S	台	1	3560	3560
	架子鼓	YAMAHA 五鼓三镲	套	1	2000	2000
	竖笛	奇美 8 孔	支	40	40	1600
成才希望小学	电子琴、琴架	CASIO CTK-1150	架	5	700	3500
	手风琴	金狮 96 B S	台	1	3560	3560
	架子鼓	YAMAHA 五鼓三镲	套	1	2000	2000
	竖笛	奇美 8 孔	支	30	40	1200
梯门小学	电子琴、琴架	CASIO CTK-1150	架	5	700	3500
	手风琴	金狮 96 B S	台	1	3560	3560
	架子鼓	YAMAHA 五鼓三镲	套	1	2000	2000
	竖笛	奇美 8 孔	支	30	40	1200
合 计						62360